

ISSN 0918-1385

# THE ROOF

郡山市立美術館ニュース ザ・ルーフ

2012.7.27 Vol. 40



エルンスト・クライドルフ『詩画集 花』より「キングサリ」1920年 水彩、墨・紙 27.9 × 19.7cm ベルン美術館蔵  
©ProLitteris, Zürich

# スイスの絵本画家 クライドルフの世界展



「パルテンキルヘン」1895年 油彩・キャンバス  
41.5 × 50.5cm ベルン美術館蔵

会期：平成 24 年8月4日（土）～9月17日（祝・月）  
会場：郡山市立美術館  
時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時半まで）  
休館日：毎週月曜日休館  
（ただし9月17日（祝・月）は開館）  
主催：郡山市立美術館  
後援：スイス大使館、NHK 福島放送局  
企画協力：NHK サービスセンター、ベルン美術館、  
クライドルフ協会、クライドルフ財団  
特別協力：スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団  
協力：スイス インターナショナル エアラインズ、  
ヤマトロジスティクス株式会社  
観覧料：一般 800（640）円 高校・大学生 500（400）円  
※中学生以下・65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

スイスのベルンで生まれたエルンスト・クライドルフ（1863—1956）は、スイスを代表する絵本画家のひとりです。彼は幼少時代、祖父母が住んでいた東スイスの農村で暮らし、スケッチをすることが何よりの楽しみでした。そんな彼は、画家を目指して石版工房で働き学費を稼ぐことになりました。やがてミュンヘンへ出て念願の美術学校に入りますが、体調を崩してアルプスで療養生活をおくることになりました。しかしその療養生活の間、アルプスの自然の中で植物や虫を眺めてはスケッチした経験は、彼の独特な、優しさにあふれた小さなメルヘンの世界を生み出す源ともな

りました。絵本画家になった彼にとって、美術学校へ行く前の石版印刷の職人としての経験は、非常に大きな意味をもっていました。通常、原画は画家で、その原画を石版に書き写すのは職人の仕事ですが、彼はその両方を兼ねていたので（実際、彼の最初の『花のメルヘン』（1898年出版）は、彼自身が原画を石版に書き写していたのでした）、印刷による色のでかたに對しても非常に厳しかったそうです。そんな彼ですから、印刷されることを前提に原画を描いていたのかもしれない。彼の原画が石版画のようなどても淡い色で描かれているの



『花のメルヘン』より「はじめの花」1898年 墨、水彩・紙 21.5 × 30.2cm  
ヴィンタートゥール美術館蔵  
Kunstmuseum Winterthur Deponiert von der Schweizerischen Eidgenossenschaft, Bundesamt für Kultur, Bern 1904

は、そんな理由もあるのでしょうか。今回は、クライドルフ協会・財団と、ベルン美術家の全面的な協力のもと、原画を中心とした225点の作品で彼を紹介する本邦初の極めて貴重な展覧会となります。



『バツタさんのきせつ』より「夜の音楽」1931年  
水彩、墨・紙 25.3 × 33.7cm ベルン美術館蔵



『詩画集 花』より表紙 1920年 水彩、墨・紙 28.9×19.6cm  
ベルン美術館蔵

©ProLitteris, Zürich

## 関連イベント

- 講演会「ヨーロッパの絵本世界（予定）」  
講師 野坂悦子先生（翻訳家）  
日時 9月16日（日）午後2時から  
場所 多目的スタジオ（入場無料）
- ギャラリートーク  
講師 当館学芸員  
日時 8月4日（土）午後2時から  
9月1日（土）午後2時から  
場所 企画展示室（要観覧券）
- 美術講座「クライドルフの絵本をみる・よむ」  
講師 当館学芸員  
日時 8月26日（日）午後2時から  
場所 講義室（入場無料）
- 美術講座「スイスの美しい自然とクライドルフ」  
講師 当館学芸員  
日時 9月2日（日）午後2時から  
場所 講義室（入場無料）
- 映画会「マルタのやさしい刺繍」  
監督 ベティナ・オベルリ  
2006年作品 スイス 89分  
日時 9月9日（日）午後2時から  
場所 多目的スタジオ（入場無料）  
内容 夫に先立たれたマルタが、夢だったある店をオープンさせようと奮闘する人生ドラマ。

## 第11回風土記の丘の美術展 郡山市内の小学生による展覧会

7月24日（火）～8月26日（日）

主催／郡山市立美術館 郡山市小学校造形教育研究会  
場所／展示ロビー

毎年恒例の「風土記の丘の美術展」。家ではなかなか見ることができない、子供たちが図工の授業で作った作品。市内を5つの地域に分けて、週替わりで展示します。展覧会とあわせておたのしみください。

第1期 7月24日（火）～29日（日）

金透、芳山、芳賀、桃見台、赤木、白岩、東芳、大島、緑ヶ丘第一、宮城、海老根、御館、御館下枝分校

第2期 7月31日（火）～8月5日（日）

片平、喜久田、熱海、熱海石筵分校、安子島、上伊豆島、湖南、富田西、桑野、小山田

第3期 8月7日（火）～12日（日）

安積第一、安積第二、安積第三、永盛、守山、御代田、高瀬、谷田川、田母神、栃山神、橘、小原田、桜

第4期 8月14日（火）～19日（日）

日和田、高倉、行健、行健第二、明健、小泉、行徳、富田、富田東、高野、鬼生田、三町目、大田、根木屋

第5期 8月21日（火）～26日（日）

柴宮、穂積、三和、多田野、多田野堀口分校、河内、開成、薫、大槻、大成、朝日が丘、ザベリオ学園

## 【夏休み公開ワークショップ】 風土記の丘発 図工&美術の時間へようこそ！ パートⅦ 「つくろう！あそぼう！夏まつり☆」

今年もやります！小中学校の先生と一緒に、図工と美術の授業を体験してください。いろいろなテーマの屋台を作ってお待ちしております。大人のみなさんもぜひ！先生方の意外な素顔に触れられるかも・・・。

日時／8月5日（日）

午前の部 11時～正午

午後の部 2時～3時

講師／郡山市内の小中学校の先生

場所／多目的スタジオなど

※各「屋台」とも先着15名程度

予約はいりません。



大盛況だった昨年の「風土記の丘発 図工&美術の時間へようこそ！パートⅥ」会場

# 開館20周年記念 バーンIIジョーンズ展

会期 10月23日(火)―12月9日(日)  
 休館日 毎週月曜日  
 観覧料 一般1000(800)円 高校・大学生500(400)円  
 ※( )内は20名以上の団体料金。  
 中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料。  
 主催 郡山市立美術館 東京新聞  
 後援 ブリテック・カウンスル 協力 日本航空



「フローラ」1868-84年 油彩・キャンパス 95.5×64.9cm 当館蔵

郡山市立美術館の開館20周年を記念して、「バーンIIジョーンズ展」を開催いたします。本展は、当館の所蔵作家を代表するイギリス人画家、バーンIIジョーンズ(1833―1898)の全貌に迫る大規模な展覧会です。

19世紀後半のヴィクトリア朝時代に一世を風靡したバーンIIジョーンズは、絵画や装飾工芸の分野において独自の世界を切り拓きました。バーンIIジョーンズの作品は、その多くが古代神話や中世文学から想を得ており、優美で神秘的な雰囲気を含んでいます。当時「世界の工場」であったイギリスでは、急速な経済発達の陰で環境汚染や貧富の差の拡大など、現代にも重なる様々な問題が生じていました。そうした中で、バーンIIジョーンズは象徴性に満ちた画風を追い求める一

方、社会と美術の関わりにも着目し、室内装飾や書物のデザインに力を注いでいます。バーンIIジョーンズの業績は、ヨーロッパをはじめとする19世紀末の芸術思潮に大きな影響を及ぼしました。日本の明治期を代表する画家、青木繁もバーンIIジョーンズのロマンティックな作風に深く感化されたひとりです。

本展では、バーンIIジョーンズによる代表作の数々が国内外から出品されます。日本初公開となる「ピグマリオン」シリーズや《眠り姫》などの絵画作品、



「眠り姫」1874年 油彩・キャンパス 126.0×237.0cm ダブリン市立ヒュー・レイン美術館蔵 ©Dublin City Gallery The Hugh Lane, Dublin

## 郡山市立美術館コレクション展

会期 9月22日(土)―10月14日(日)  
 休館日 毎週月曜日(10月8日は開館、翌日休館)  
 観覧料 一般200(150)円 高校・大学生100(70)円  
 ※( )内は20名以上の団体料金。  
 中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料。

美術館のコレクションは、いわばその館の「顔」だといえます。郡山市立美術館の場合は、「イギリス近代美術」、「日本近代美術」、「郷土ゆかりの美術」、「本(版)の美術」というテーマで作品の収集、展示を行なっています。1992(平成4)年11月21日の開館以来、当館では常設展示室において1年に4回の展示替えをしながらコレクションを紹介しています。私たち学芸員が展示室ごとにテーマを設定し、作品をリストアップ。テーマや、隣に展示される作品との関係などによって、作品の印象が大きく異なることもあるため、担当学芸員はさまざまな工夫を凝らします。今回は、開館20周年を記念して、企画展示室を会場に当館のコレクションを展示します。いつもは常設展示室に並べられる作品がどのような表情を見せるか、新たな発見があるはず。もちろん、常設展示室でも通常通りテーマに沿った展示をします。企画展示室、常設展示室あわせて、当館のコレクションの魅力をお楽しみください。

(中山恵理)

壁画やタペストリー、『チョーサー著作集』をはじめとするケルムスコット版の貴重書など、厳選された75作品です。そして、本展には郡山市立美術館のコレクションを代表する『フローラ』と『アヴァロン』におけるアーサー王の眠り姫が出品されています。これら二点は東京の三菱一号館美術館から兵庫県立美術館へ巡回し、この秋当館へ帰ってきます。「バーンIIジョーンズ展」という空間において、常設展示とはまた別の雰囲気です。それぞれの作品をご堪能いただけると幸いです。『フローラ』をデザインした展覧会グッズにもどうぞご期待ください。

(永山多貴子)

# 手塚治虫先生と会津そして笹川ひろし先生のこと

白井祥隆（「会津若松冒険堂」管理人）

司から、漫画で何か街おこしになるような事はないだろうかと相談された時、一つの事を思い出しました。

それは、会津若松市の白井義夫さんから聞いたエピソード、「昭和34年4月に手塚先生が会津を訪れて、漫画を一本描いた」という話。それまで、いろんな手塚漫画を読んできたつもりでも全く知りませんでした。その時、当時の掲載された『少年サンデー』を見せていただいたりびっくりしたものです。なんと、その作品は『スリル博士』であり、主人公のヒゲオヤジ（スリル博士）が会津若松を訪れ事件に巻き込まれるストーリーでした。まるでロケハンした映画のようなもの、鶴ヶ城や飯盛山、せあぶり山、そして神明通りまで登場していました。



会津若松市の飯盛山での手塚治虫氏ご家族（昭和50年8月）  
（白井氏が手塚夫人から借用した写真）

先日開催された県内初となる「手塚治虫展」（4月14日・6月3日）は、大変すばらしい内容と規模であったと思います。私も開館初日に訪れ感激した手塚ファンの一入です。漫画の大好きな私は小学生の頃、未来の子供が江戸時代にやってきて活躍する漫画『スーパー太平記』にすっかり魅了され、こんなに面白い漫画を描く人はどんな人なんだろうかと、憧れ、いつか自分も描いてみたいと夢見ていました。その作者名が手塚治虫氏であると知ったのはずいぶん後でした。

社会人になり、今から14年前、職場の上



「手塚治虫展」講演会での笹川氏



同講演会での白井氏（右の絵は当日笹川氏が描いたおだてブタ）

しかし、なぜ手塚先生が殺人的においそがしい中、会津を訪れてくれたのか？その発端は笹川ひろし氏が手塚漫画にあこがれ、自分の漫画を描いて批評してもらおうとして手塚先生に送った事にあります。小学生の時に感激して読んでいた頃、手塚先生の元でアシスタントをしていたのがわかりました。そしてこの頃、手塚先生の所には会津から笹川氏以外にも平田、舟久保氏の両名もアシスタントになっていて、毎日、お手伝いをしながら、故郷会津の話をしていたため、手塚先生が興味を示し行ってみようということになったらしいというのが理由でした。

その後の史実については『私たちの手塚治虫と会津』（平成12年）にまとめたので、興味ある方はごらんいただきたいと思いません。

さて今回の開催初日（4月14日）、笹川ひろし先生の特別講演として「手塚治虫と福島県」があり、最後に私も壇上であつたなお話をさせていただきました。終了後に、

ある方から私がつつと探していた方の情報を偶然教えていただきました。それは、手塚先生が妹さんご夫婦をはじめ、お母さんや奥さん、子供さんも含めて会津を訪れた際、白井義夫氏から依頼されてレンタカーを運転した人の事でした。永い間、探してはいたものの、名前も何もわからずに居た事を思うと本当にびっくりする出来事でした。おかげさまで、今回は会津で執筆した『スリル博士』の生原稿も初めて拝見出来、加えてこんなサプライズもあり、大変満足しています。ありがとうございます。本を出版した後からこれ以外にも次々と新たな資料が見つかっており、それも加えた改訂本を作りたいと今、考えています。

また現在は、手塚先生の足跡を訪ねて歩くスタンプラリーや、看板・パネルを設置し、皆さんに手塚漫画と出会うきっかけ作りをしています。



「手塚治虫展」会場外の階段ホールでは、笹川氏ら12人の現代漫画家たちが参加した「つながろう ふくしま 漫画の力プロジェクト」も開催された。

# 「私は、私宛に葉書を出す。」

## 演劇実験室◎万有引力 根本 豊

今回の「不思議映像展示」において、観客はまず記念写真を撮られ、上映終了後には自分宛の葉書を手製のポストに投函させられる。葉書は美術館員によって集められ後日、その記念写真は自分宛に書いた一文と共に送られてくる。観客は過ぎし日の自分と否応なしに対面させられる仕組みである。今回の映像素材である『100万光年の彼方劇』なる宇宙劇・暗闇の彼方」と題して観客に目隠しをさせ、目隠しを取っても完全暗転のさらなる闇の中というラストシーンで締めくくった。宇宙に散らばるもう一人の自分、無数の自分と闇の中で対面させる試みである。目論見が伝わったかどうかはともかく、今回の自分宛の葉書と、内なる闇を探すというコンセプトには通底するものがある。いうまでもなく闇とは無ではなく混沌である。数ヶ月前に自分宛に出した葉書と対面すること、それが、観客それぞれが抱える混沌とむきあうことであると考ええる。差出人は本当に自分なのか？疑うところから始めてもらいたい。葉書といえは、私が師事した寺山修司は書簡を出すことに、とにかく異常に執念を燃やし続けたことを思い出す。海外公演など

に出掛け、現地に到着してまずすることは大量の絵葉書と切手を買ひ込むことであった。また寺山はまったく観客なしの（従って公演なしの）「書簡演劇」を演出し続けた。それは、寺山にとつて出会いの偶然性を想像力によつて組織するための一つの営為であり、同時に演劇における意味作用と、形式を与えている物的行為との分離との実験でもあった。寺山は語る。《しばしば、私は私自身の主人であり、また私自身の下男である。五分前の私と五分後の私とは他人であり、それを「私」という記号によつて統一しようとすることは記憶への退行にほかならない……（略）……十二時間前に手紙を書く私と、十時間後に投函する私と、たった今、それを受け取る私とが、同じように「私」であると理解することは過去の相対化であり、存在の内実の否定である。そこで、私は私自身にあてて手紙を書くことで「私」を偶然と不連続性の中へ投げ出したい。一メートル七十三センチの私の肉体は「劇場」であり「市街」であり、そして対立と葛藤をはらむ一万人のための番地（アドレス）だからである。》

（私は、私宛に葉書を出す。）

【『臓器交換序説』より】

さて観客のみなさんには、例の葉書は既に届いていることと思う。どうか寺山の言葉思い出し、自分を「偶然と不連続性の中へ投げ出して」いただければ幸いである。なお、美術館からの要請では上映会の顛末をということだったが字数も尽きてきたので、インターネット環境にある方は拙ブログ「根本豊・旅の途中」を検索し、《『不思議映像展示』そして午後2時46分》の項を参照頂きたい。

### —公開ワークショップ—

## 演劇実験室◎万有引力『100万光年の彼方劇＝劇的小道具序説』不思議映像展示

- 日時＝ 2012年3月3日（土）夜6時開場・開演  
3月4日（日）昼2時開場・開演
- 場所＝企画展示室、多目的スタジオ、階段ホール等
- 言語・楽曲士＝J・A・シーザー
- 共同言語・蠅ノ弁士（ジョバンニ）＝根本 豊
- 蠅ノ探照士＝笠松喜美
- 蠅ノ音操士＝玉内聖也 富岡進一
- 蠅ノ先導士＝佐久間香織 玉内美愛 熊野泉 貞森裕児
- 蠅ノ幻燈士＝菊地功晃 菅野洋人

2008年10月4日、5日に当館で開催された、演劇実験室◎万有引力の演劇『100万光年の彼方劇＝劇的小道具序説』の公演VTR上映会。2011年3月26、27日に開催される予定だったが震災のため延期された。2008年の公演は途中で観客をふたつに分け、異なる劇を同時進行させたものだったため、今回の上映会でも途中で観客を半分に分け、企画展示室と多目的スタジオ等で別々の劇を上映した。劇の場幅がめまぐるしく転換されるため、根本豊が、劇の解説を兼ねた弁士となり、劇中ワークショップも行った。

# Report

## 第4回風土記の空 郡山市内の中学校美術部・選択美術 による作品展

平成23年11月23日～12月25日  
会場：美術館ロビー



美術部活動や選択美術などにおいて制作した作品を美術館内に展示しました。

参加校／逢瀬中学校、片平中学校、守山中学校、郡山第四中学校、郡山第五中学校、郡山第七中学校、緑ヶ丘中学校、宮城中学校

## 歌川国芳展講演会 浮世絵エンターティナー国芳

講師：稲垣進一氏  
(国際浮世絵学会常任理事)  
平成23年11月12日  
会場：多目的スタジオ



国芳の風刺や独特の表現についての解説のほか、稲垣氏ご自身のコレクションの現物もご紹介いただき、浮世絵の生の感触まで楽しむことができました。

## 公開ワークショップ 「歌川国芳と鯉アートのぼり」

講師：渡邊晃一氏  
(福島大学准教授・美術家)  
平成23年12月24日  
会場：創作スタジオ



震災以降、アートによる支援活動として、子供たちの未来を育んでいこうと始められたプロジェクト。制作された「鯉アートのぼり」は、福島県内の各施設で展示されました。

## 東日本大震災復興支援コンサート in 郡山市立美術館

演奏：吉澤実氏 (リコーダー)  
永田平八氏 (リュート)  
平成24年1月6日 会場：階段ホール



20種類以上(!)の笛や、珍しいリュートなどの楽器の紹介やテレビでおなじみの吉澤氏のトークを交えた楽しい演奏会でした。

## 駒井哲郎 1920-1976 展講演会 「在りし日の駒井哲郎」

講師：中林忠良氏 (版画家、東京藝術大学名誉教授)  
平成24年1月22日  
会場：多目的スタジオ



駒井哲郎の作品の特徴や技法に加え、駒井の助手をなさっていた中林氏ならではのエピソードも交えてご講演いただきました。

## ミュージアム・コンサート 駒井哲郎によせて

—フランス近代音楽を中心に—  
演奏：植村理葉氏 (ヴァイオリン)・丸山泰雄氏 (チェロ)・山田武彦氏 (ピアノ)  
平成24年2月10日 会場：階段ホール



駒井哲郎が愛したフランスの近代音楽のほかに、彼が参加した実験工房関連の作品が演奏され、駒井芸術の一端を示す演奏会となりました。

## ワークショップ「エッチング講座」

講師：安藤真司氏 (版画家)  
平成24年2月11日 会場：創作スタジオ



開催していた「駒井哲郎展」にちなみ、現在活躍中の版画家安藤真司氏から、銅版画の代表的な技法であるエッチングを学びました。刷りの工程では、みなさん夢中で作業されていました。

## ワークショップ「モノタイプ講座」

講師：安藤真司氏 (版画家)  
平成24年2月12日 会場：創作スタジオ



前日に続いて、この日は版画の中でも独特な技法であるモノタイプを学びました。こちらはその名のとおり一点ものの制作です。偶然性をたのしみながら、奥深い表現を体験する貴重な機会になりました。

## 公開ワークショップ「鯉アートのぼり」展示

平成24年4月21日～5月20日  
会場：美術館ロビー



前年12月24日のワークショップで制作したものに加え、様々なアーティストの手による「鯉アートのぼり」を展示しました。ヤノベケンジ氏や笹川ひろし氏の作品もあり、楽しい展示になりました。

常設展示のごあんない

■ 10月28日(日)

展示室1 イギリスの版画

展示室2 明治・大正の油彩画

展示室3 郡山の美術

展示室4 版画のいろいろ／涼を求めて

■ 10月31日(水) ～平成25年2月3日(日)

展示室1 イギリスの油彩画

展示室2 日本近代美術にみる浪漫的世界

展示室3 戦後の美術

展示室4 バーン・ジョーンズとヴィクトリア朝／ドレッサーとアーツ&クラフツ運動

※10月30日(火)は展示替えのため常設展示室はご覧になれません。

ミュージアム・シアター

■ 「雄呂血」

監督 二川文太郎

1925年 坂東妻三郎プロダクション 75分

日時 7月28日(土) 午後2時から(開場は30分前)

場所 多目的スタジオ(入場無料)

内容 奈良・東大寺周辺で撮影されたサイレント映画。

坂東妻三郎主演映画の中でも最高傑作のひとつとされている。(「入江泰吉写真展」関連事業)

■ 「マルタのやさしい刺繍」

監督 ベティナ・オベルリ

2006年 スイス 89分

日時 9月9日(日) 午後2時から(開場は30分前)

場所 多目的スタジオ(入場無料)

内容 3ページを参照ください。

—開催までの道のり—

没後20年 入江泰吉写真展 祈り—大和路より—  
平成24年6月16日(土) —7月29日(日)



「入江泰吉写真展」テープカット 平成24年6月16日

左から 木村孝雄教育長 小島寛子文教常任  
委員長 大内嘉明市議会議長 原正夫郡山市長  
仲川げん奈良市長 伊藤実郡山青年会議所  
副理事長 吉田暁志少年サッカー郡山市選抜代表  
佐治ゆかり当館館長

3ヶ月後に迫った「入江泰吉展」のポスター、チラシのデザインを発注したばかりだった平成23年3月11日、あの大地震にみまわれた。翌日から私たち美術館職員は深夜シフト中心の避難所での勤務がはじまり、美術館も長期休館を余儀なくされた。「入江泰吉展」も中止が決まった。

ところが、震災から1ヶ月を経過した4月下旬頃から、土・日を中心に、「美術館は開いてますか」という電話が頻繁にかかってくるようになった。この時分になると、郡山周辺ではすでに多くの人たちが普段の生活に戻ろうとしていて、文化芸術への接触を欲し始めていたようだ。郡山市では文化センターや図書館が大きな損壊を受け、復旧の目途がたない状況だったこともあり、その分美術館の早期開館を求める声が大きくなったのだろう。それらを受けて郡山市及び郡山市教育委員会は、美術館の7月中旬の再開を決定した。

それからの私たちは、避難所、ついで災対本部の総合相談窓口業務をこなしながら、美術館業務を本格的に再開させた。「入江泰吉展」の平成24年度開催も内定した。そこで、入江の写真がもつ「祈りの力」によって少しでも市民の心を癒し、明日へ踏み出す力に変えてほしい、そんな願いから、23年度に予定していた展示プランを大幅に変更、「祈り」「癒し」をイメージした堂塔の見える風景や仏像、花々の写真を増やした。奈良市写真美術館へその旨を伝えたと、全面的に協力します」とありがたい回答を得た。また、皆さまのお写真を展示させていただくことのご挨拶に出向いたお寺さん—薬師寺、唐招提寺、室生寺など、名だたる名刹からも協力をいただけることになった。その縁から郡山仏教会のお寺さんがポスター掲示などにご協力いただき、また、市内の写真団体の皆様も開会式への参列を約束してくれた。

こうして縁をもった大勢の人たちの協力のもと、平成24年6月16日、郡山・奈良の両市長も出席して「入江泰吉展」の開会式が挙行され、展覧会がスタートしたのである。

(鈴木誠一)



説田晃大学芸員(入江泰吉記念奈良市写真美術館)による特別ギャラリートーク(6月16日)。



加藤朝胤氏(法相宗大本山薬師寺副執事長)による講演会(6月23日)。

TOPICS

装いを新たにカフェ、オープン!

4月14日、「juju 130 cafe」がオープンしました。週替わりのワンプレートランチをはじめ、パスタ、デザートやおいしいお飲物をご用意してお待ちしております。特に自家焙煎の豆を使った新鮮なコーヒーはおすすめです。

営業時間 11:00-17:00

